

[第22回]

# JOE 日本オイルエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 **鈴木 英壽** 氏

## ベストなエネルギー・ソリューションを提供し、 限りある資源とかけがえのない自然を未来につなぐ ～プロフェッショナルなエンジニアリング集団～

日本オイルエンジニアリング株式会社は、1968年6月に、富士石油株式会社の袖ヶ浦製油所における各種機器の維持補修サービスを行う会社として設立されました。設立時の商号は「富士エンジニアリング株式会社」でしたが、翌年の1969年6月に商号を「日本オイルエンジニアリング株式会社」に変更し、事業内容も、アラビア石油の業務を中心に石油業界でいう上流部分の業務を手掛けてこられ、石油・天然ガス開発生産における国内唯一のコンサルティング及びエンジニアリング専門企業として、業容を拡大してこられました。同社には、「脱炭素化」の動きが顕著となる以前から石油・天然ガス以外の事業に取り組むべきだ、との問題意識があり、現在では、エネルギー関連の事業を幅広く行うコンサルティング&エンジニアリング企業に変貌を遂げられています。今回のインタビューでは、代表取締役社長の鈴木英壽様から、石油・天然ガス開発生産に関連する事業で培われた知識・経験を活かして、時代の新たな要請にいかに対応していくかについて、詳しく語っていただきました。

### 石油・天然ガス開発生産における 国内唯一のコンサルティング& エンジニアリング専門企業

— 御社の会社案内に、「石油・天然ガス開発生産における国内唯一のコンサルティング及びエンジニアリング専門企業」とあるのを見て、国内に石油・天然ガス資源がほとんどない日本において、どうして御社のような企業が育ったのだろう、と不思議に思いました。まず、御社の歴史についてお話しいただけますか。

**鈴木** 当社は、1968年6月に、富士石油株式会社の袖ヶ浦製油所における各種機器の維持補修サービスを行う会社として設立されました。その後、アラビア石油が中東のカフジ油田やフート油田の開発を進めたことに伴い、当社も、アラビア石油の関連会社として石油業界でいう上流部分の業務を1970年代に入り本格的に手掛けるようになり



ました。現地では、海上油田における生産井の掘削、生産された原油を陸上に運ぶためのパイプラインの敷設、さらには原油処理施設や水処理施設、発電施設などのユーティリティ施設の建設が進みました。当社も、現地鉱業所に人員を派遣し、地下貯留層のシミュレーションに始まり、地下貯留層の分析から海上・陸上施設のデザインや設計、さらには、施設の維持保守の業務など幅広い業務を経験することとなり、これが、当社の大きな財産となりました。マレーシアの国営石油公社であるペトロナスの創設期に原油・ガス生産に関して、当社が油層評価のレビューおよび将来の設備計画の技術サービスと幹部人材の育成支援を日本政府のご支援をいただきながら同社に提供できたのも、この経験があったからだと思っています。

そのほか、日本国内では、阿賀沖、磐城沖、阿賀沖北、岩船沖、中国では、渤海油田及び珠江沖の海上油田関連構築物のエンジニアリング業務や建設工事監理業務にも携わることができました。現在では、国内の石油・ガス開発会社や商社、電力会社、プラント会社などの民間企業に加え、エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）、産業技術総合研究所（AIST）、国際協力機構（JICA）などの政府関連機関の仕事もさせていただいております。

## 長年取り組んできた CO<sub>2</sub>の地下貯留

—ところで、近年、地球温暖化問題への関心の高まりを背景として、化石燃料への風当たりが強くなっているような気がします。私個人としては、今後とも増加が見込まれるエネルギー需要に対して、化石燃料抜きはあり得ないと思うのですが、御社の今後のビジネスをどのようにお考えですか。

**鈴木** 実は、「脱炭素化」が喧伝されるだいぶ前から、将来、二酸化炭素の地下貯留が重要になる、という問題意識は持っていました。例えば石油生産に関しても、当社では40年ぐらい前



から、石油に二酸化炭素を混ぜることで粘度を低下させ、原油増進回収を図る手法であるCO<sub>2</sub>-EOR（Enhanced Oil Recovery）のシミュレーターの研究開発を始め、その後、実際の油田に適用したスタディを手掛けてきました。CO<sub>2</sub>の地下貯留に関しては、石油ガス層や帯水層での貯留層のシミュレーション業務を約20年間手掛けてきております。加えて、施設面でCO<sub>2</sub>の分離・回収、輸送、地下への圧入に関する設備設計、コスト算定などの業務も行ってきました。したがって、当社には、CCUSに関して、地下貯留層評価から地上設備のコンサルティング・エンジニアリング業務まで、全てのサービスを提供できる体制が整っており、これまで多くの調査、評価等の実績を積み上げてきています。脱炭素が叫ばれ、CCUS/CCSについても大きな役割が期待されていると思いますが、当社は、この分野で大いに貢献していきたいと考えております。

## お客様に 最適なエネルギー・ ソリューションを提供

—御社は、既に「石油・天然ガス開発生産における国内唯一のコンサルティング及びエンジニアリング専門企業」という枠を超えているんですね。

**鈴木** かなり前から、今後当社が生き残っていくためには、石油と天然ガスの事業だけではだめだ、という問題意識がありました。また、これまでも、なんとなく当社の使命はこうしたものではないか、といった共通認識もありましたが、きちっと書いたものはありませんでした。そこで、社内でも議論を重ね、当社が今後なすべきことは、石油・天然ガス関連のビジネスで培った知見を活かし、環境に調和したエネルギー開発に関連するコンサルティングや脱炭素社会に向けた関連コンサルティングなどの様々なサービスを提供することで、脱炭素社会への移行に貢献することではないか、ということになりました。そして、3年前に「当社の使命」を明文化しました。すなわち、当社の使命は、「顧客に最適なエネルギー・ソリューションを提供することを通じ、日本をはじめ世界の国々のエネルギー基盤の安定的、継続的な発展、エネルギー基盤と地球環境負荷低減との調和、人々の生活の質向上に貢献する」ことである、と考えております。

## プロフェッショナルな エンジニアリング集団

—なるほど。ビジネスの対象を「石油・天然ガス」から「エネルギー全般」に拡大されたんですね。ところで、御社の目指すべき姿として、「プロフェッショナルなエンジニアリング集団」という言葉が出てきます。ここを具体的に説明いただけますか。

**鈴木** 「プロフェッショナル」といった場合に、人によってイメージする姿は様々だとは思いますが、私は、単に技術的に優れているとか知見がある、というだけではプロフェッショナルとは言えない、と思っています。常々、当社の社員には、「プロフェッショナルになるには、3つの条件を満たす必要がある」と言っています。第一は、サービスプロバイダーカンパニーとして、お客様の期待に応えて、お客様に価値あるものを提供することです。第二は、お客様の期待が時とともに変化していくことを前提として、お客様の変化する期待に応えるため挑戦





最新の専門技術情報を調べるエンジニア  
(本社図書室にて)

し続け、研究努力をしていくことです。当社は、特定のお客様から繰り返し仕事をいただくビジネスであるため、お客様との関係が重要なわけです。第三は、お客様と仕事に誠実に向き合うことです。この3条件が満たされて、初めて「プロフェッショナル」であると言えると思います。

— プロフェッショナルという話に関連して、一つご質問したいことがあります。御社のホームページに、社員の方々が携わったプロジェクトや研究開発に関する論文・講演・出版物が数多く載っていました。こうしたものは、他社のホームページでは見たことがないのですが、これも、御社が「プロフェッショナル集団」である証しということになるのでしょうか。

鈴木 お話しいただいた論文などの紹介のページは、2016年に当社のホームページを大幅に刷新した際に掲載を始めています。当社はエンジニアリングやコンサルティング・サービスをお客様に提供する会社です。したがって、お客様に質の高いサービスを提供するためには、先進の状況を把握・整理し、適応の可否などきちんと対応できなければならないと思っています。そういった意味では、論文や講演会での発表などは、一定の先進技術や自らの研究、適応動向を整理するまたとない機会です。それらを行って発表しているという事実をホームページに掲載することで、当社のCapabilityの

一端を社外に示すことになるものと思っています。実際に海外の会社からは、論文掲載情報について問い合わせを受けたりすることがあります。

## 今後重点を置く事業とは

— 先ほど、CCUSが御社の今後のビジネスの柱の一つである、とのお話を伺いましたが、当然それ以外にも様々なビジネスをお考えだと思います。それらをご紹介いただけますか。

鈴木 当社使命のご説明でも申し上げましたが、当社のビジネスを「エネルギー全般」に拡大するに際し、そのベースとなるのは、今まで石油・天然ガスのビジネスで培った経験や知見です。例えば、当社の保有する石油・天然ガスの貯留層の分析技術や地下掘削技術は、地熱発電事業において地下の熱水の貯留分析やボーリングに活用することができる、と考えられます。また、海上油田のプラットフォームのデザイン・設計・工事監理の経験を活かして、着床式洋上風力発電の分野に参入することもできると思っております。そのほか、ブルー水素・アンモニア事業を含むCCUS/CCS分野、バイオマス混焼といったGHG削減対応技術分野も当社の経験を活かせるところが多い、と思っております。いずれの分野においても、当社が従来

施設のデザイン、設計だけでなく、操業や施設の保守維持に関与してきた経験は、当社の貴重な財産だと思っています。さらに、最近では、海外における植林事業によるCO<sub>2</sub>吸収のネガティブエミッション手法に関するノウハウについても研究を進めています。

また、「脱炭素」以外では、「デジタルトランスフォーメーション/DX」も重点分野の一つです。今後、設備のメンテナンスに関しては、人手不足がより深刻になり、デジタル化による予知保全管理が必要不可欠になると考えています。当社は、デジタルの専門知識が豊富なわけではありませんが、現場のノウハウを豊富に有しております。現在株立産業制御ソリューションズ様と連携していますが、お客様にとって真に必要なITソリューションを提供していきたい、と考えております。

本日は、「脱炭素」分野を中心にご説明しましたが、石油・天然ガスのビジネスも当社の柱の一つであることに変わりありません。この分野におけるこれまでご説明した業務の他に、生産施設に係る様々なリスク評価支援、HSEマネジメントシステム導入支援、環境影響評価報告書の作成支援や第三者の評価作業、油流出事故対応計画策定支援といったサービスも引き続き実施してまいります。これからの道も起伏に富んだものになるだろうと思いますが、しっかり歩んでいきたいと思っております。



## 鈴木 英壽 (すずき ひでひさ)

- 1959年 群馬県生まれ
- 1982年 3月 慶應義塾大学経済学部卒業
- 1982年 4月 富士重工業株式会社(現株式会社SUBARU)入社
- 1992年 11月 アラビア石油株式会社入社 経理部経理一課課長代理
- 1994年 10月 同社駐在代表取締役室(在サウジアラビア王国) 兼アラビア鉱業所調整室
- 2008年 2月 同社秘書室審議役 兼AOCホールディングス株式会社出向
- 2008年 6月 同社秘書室長 兼AOCホールディングス株式会社出向
- 2011年 6月 日本オイルエンジニアリング株式会社常務取締役総務部長
- 2013年 6月 同社総務部長
- 2014年 6月 同社取締役総務部長
- 2016年 6月 同社常務取締役総務部長
- 2017年 6月 同社代表取締役社長(現任)

## 経験豊富なベテランが 支えるビジネス

— 御社は、ベテランの方が中心となって、ビジネス展開されているとお聞きしたのですが……。

**鈴木** 当社の社員の平均年齢は、40代後半で比較的高いかもしれませんが。当社の事業は、経験が物を言うところがあります。国内外の現場でプロジェクトマネジメントなどの経験を積んでいる者もおります。新しいことへの興味が尽きない人間も多く、チャレンジを厭わない雰囲気があります。当社は、大きな陣容でないこともあり新卒採用は数年に1回程度でキャリア採用が中心です。また、昨年夏から「シニアスペシャリストの登録」制度を始めました。この制度は、石油会社やエンジニアリング会社を定年で退職されるなど十分な経験をお持ちのエンジニアの方を対象に、経歴や経験を登録いただき、ふさわしい仕事が生じた際に、短期間の仕事をお願いするものです。登録されたシニアスペシャリストとお客様企業の双方にメリットのあるようにしていきたいと考えております。

## 愛読書は、日本海海戦の名参謀、秋山真之海軍中将の『天剣漫録』

— 最後に、鈴木様ご自身のお話をお聞かせいただきたいと思います。今までで印象に残ったお仕事、愛読書といったものをお聞かせください。

**鈴木** 2003年に、私は、サウジアラビアとクウェートの中立地帯にあるカフジ油田で仕事をしていたのですが、イラクのフセイン大統領（当時）が大量破壊兵器を保有しているということで、ブッシュ米国大統領（当時）がイラクを攻める、という話が出てきました。当時、カフジには多くの日本人がいたので、退避計画を作らなければならないということで、私がその担当となりました。空港は閉鎖される可能性があるので、陸路で退避するために、カフジからカタールの国境まで600キロを越える退避路の確認を、自分で自動車を走らせて行いました。結果として、退避の必要はなく、良かったのですが。

愛読書は、日本海海戦の名参謀である秋山真之海軍中将の『天剣漫録』です。秋山中将が若いときに書いた30の

所感なのですが、「金の経済を知る人は多し。時の経済を知る人は稀なり。」  
「成敗は天に在りと雖、人事を尽さずして、天、天と云うこと勿れ。」など、現代にも通じる名言もあり、時々読み直しています。

— 本日は、お忙しいところ、大変ありがとうございました。



### インタビュー後記

日本オイルエンジニアリング株式会社の本社は、東京オリンピックの選手村があった勝どき駅近くの高層ビル内にあります。

名前だけを見ると、石油関連の仕事が中心であるように思えるのですが、実際には、石油・天然ガスビジネスで培ったノウハウを活かして、「脱炭素」時代に対応するビジネスをなさっていることがわかりました。

愛読書としておっしゃった『天剣漫録』の30の格言は、時代を感じさせるものもありましたが、なかなか面白いものも多かったです。

聞き手：当協会専務理事  
前野 陽一



### 企業データ

社 名：日本オイルエンジニアリング株式会社  
 事業内容：石油・天然ガスの開発・生産並びに二酸化炭素を利用した原油の増進回収（CO<sub>2</sub>-EOR）及び二酸化炭素の回収貯留・利用（CCS/CCUS）技術、地熱発電等に関するエンジニアリング・コンサルティング  
 設 立：1968年6月  
 所 在 地：東京都中央区晴海一丁目8番12号  
 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワー-Z 7F  
 従業員数：44名（2022年4月1日現在）  
 ホームページ：<https://www.joe.co.jp/>

